

贈り物は手作りで

木工初心者の記者が制作した
組み木のクリスマスツリー飾
りと置物



工房集積地 宗像で記者挑戦

県内で美術、工芸作家の工房が集まる地域といえば、糸島が有名。実は宗像にも相当数存在する上、初心者にも本格的な作品作りを手ほどきしてくれる場所があるという。もうすぐクリスマス。今年は家族へのプレゼントを手作りしてみたい。学生時代から技術系科目が大の苦手の記者は12月上旬の日曜、組み木の講習会を開いているという福津市津屋崎の木工房を訪ねた。



テノ森のクリスマス用組み木講習会で、電動糸ノコギリの操作法を指導する細井護さん(左)

※テノ森の組み木講習は23日まで毎日実施。1日3800円。予約は080(1750)7404。

カフトガニなど貴重な生物が生息する「津屋崎干潟」近く、ミシンに似た電動糸ノコの集積地の一角に、木工房「テノ森」はあった。小学校体育館の3分の1ほどの小屋に、製材機や旋盤などの機械約20種類とノミなどの小道具がそろっている。彫刻家の細井護さん(40)が制作の合間に希望者に応じて指導するほか、1時間150円で作業室や道具を貸し出している。

この日の講習はサンタクロースや天使の形をした組み木ツリー飾りや置物作り。厚

いい。自分の器用な(?)一面を発見し、一層楽しくなった。

福岡、北九州両政令市の中央に位置し、ベッドタウンとして発展した宗像、福津両市の地の利に加え、海、山などの豊かな自然、手ごろな土地代などから、作家も数多く移住してきた。

約20年前から宗像市でガラスの「粹工房」を営む伊藤幹生さん(58)によると、革細工、彫金など幅広い分野の工房40軒以上が点在し、体験型も複数ある。しかし「個人活動の年配者が多かったため、糸島ほど横のつながりがなく、知名度が低いのが課題」という。最近、若手が移住して連携を模索する動きが出てきた。

それが、さらなる移住を呼んでいる。細井さんもその一人。北海道教育大などで学び、10年近く世界各地での創作活動後「ものづくりの大切さや地域の絆を共有できる仲間」に出会い11月、この地に工房を開いた。同じく工房を構えた30〜40歳の作家たちと連携して展覧会なども開き、徐々に知名度を上げている。

「どんな工房がいくつあるかなどを把握し、地域おこしを進めたい」と伊藤さん。「西の糸島、東の宗像」と言われる日はそう遠くはない。

(田中敦子)

